

卵からキューブ

— 西南学院大学チャペル新築工事の経緯 —

後藤 新治

「瓢箪から駒」という譬えにならえば、大学チャペル新築工事は「卵からキューブ」だろうか。コンペ時設計案のオーヴァル型が関係者の予測をはるかに超える矩形へと展開していったからである。一時は訣別かと思われた危機的状況を幾度か乗り越え、「卵」は成長しながら意外な孵化を遂げた。本稿は新チャペル誕生の紆余曲折を単純化し要約するのではなく、残された資料を基にできる限り客観的に再構成し記録することを心がけた。建築の評価には時熟が必要である。

コンペ以後、基本プランに設計変更を迫った要因は3つある。1) 元寇防塁遺跡が当初の想定よりさらに12m北に位置していたこと、2) オーヴァル型内部に収まった扇形空間がパイプオルガンの音響に不向きであったこと、3) 講話者と会衆の視覚的接近や一体感の重視から音響優位へと設計の視点がシフトしたこと。それぞれ具体的にどのような解決を図ったかは本文の年表を参照していただきたい。

また詳細設計の過程でもに財政的な理由から2つの変更提案があった。1) 北側キャノピー（白い半円形の庇）およびその下のピロティー（半円形の階段とテラス）の規模縮小、2) 外壁赤煉瓦の大学博物館と同じ「イギリス積み」から見せ掛けだけの「イギリス調積み」への仕様変更。前者はピロティーがチャペル前の広場から人々を招き入れるばかりか階段がベンチ代わりにもなる重要なコミュニケーション装置であるがゆえに、後者は外壁が建学の精神にも通じるヴォーリズの煉瓦職人の手業を視覚的にも触覚的にも日常的に感じてもらえる象徴的なオブジェであるがゆえに、ともに原案復帰を訴えた結果、委員会の要求は認められた。

年表作成に用いた資料の多くは筆者が2005年7月のチャペル建設委員着任以来入手したものである。作成にあたりとりわけヴォーリズ建築事務所の中山献児氏にはお世話になった。施設課や宗教部をはじめ、辻オルガン、永田音響設計、本学オルガニスト、そしてチャペル建設委員会のメンバーにはこころからお礼を申し述べたい。


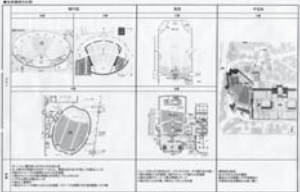
西南学院大学チャペル新築工事の経緯

作成＝後藤新治 資料提供＝一粒社ヴォーリズ建築事務所、施設課、宗教部

年月日	事項	内容	出典・資料
1954.10.10	ランキン・チャペルを建立（献堂式）	設計＝ヴォーリズ建築事務所、施工＝辻組他。鉄筋コンクリート造、地下1階・地上3階、総面積1801.8㎡、総工費4260万円、座席数1500席、チャペルセンター3室。	『西南学院七十年史』、「ランキン・チャペルの基礎部分に埋められていた資料等について」（2006.10.5）
1987.11.28	ランキン・チャペルにパイプオルガンを設置（奉献式）	製作＝辻オルガン（作品第44号）。	「大学の概要／建学の精神・歴史／年表」（西南学院大学ホームページ）
2001.1.23	大学総合計画委員会（委員長＝村上隆太学長）はランキン・チャペルの建て替えの議案を審議	学院中期キャンパス整備構想の一環として、大学新講堂（チャペル）を建設する。新チャペルは700人程度収容で2005年度完成予定。大学の募金事業対象となる可能性。	「総合計画委員会記録」
11.13	宗教部はランキン・チャペル設備（空調など）の改善を要望	設備改善は建て替えまで保留。	「チャペル建設委員会の推移」（2005.7）
2002.2.27	宗教部会議開催	チャペルの建て替えについて懇談。	「チャペル建設委員会の推移」（2005.7）
6.17	宗教部関係者にチャペル建て替えに関するアンケートを実施	対象は宗教部委員、オルガニスト、宗教部職員、キリスト教学教員（～7月2日）。	「チャペル建設委員会の推移」（2005.7）
12.18	大学第9次財政計画（2003年度～2005年度）の中にチャペルの建て替えが盛り込まれる	新チャペルは1000人程度を収容、2005年度竣工予定。	「チャペル建設委員会の推移」（2005.7）
2003.7.3	宗教部は教職員全体を対象にしたチャペル建て替えに関するアンケート実施を打診	アンケート実施は建設委員会が満足するまで保留。	「チャペル建設委員会の推移」（2005.7）
10.28	部長会議開催	大学総合計画委員会のチャペル建て替え計画を可決承認。	「チャペル建設委員会の推移」（2005.7）
11	大学チャペルの建設にむけてチャペル建設委員会が発足	委員長＝G.W.パークレー（宗教部長）、委員＝伊藤龍峰（図書館長）、山田順（文学部助教授）、中村晴光（大学事務長）、山方信保（施設課課長補佐）、吉積正典（学生課課長補佐）、リディア・ハンキンス（学院宗教主事）、安藤公正（宗教部事務室課長補佐）。	「新チャペル（講堂）建設に関するチャペル建設委員会の中間答申の提出について」（2004.6.17）
12.11	第1回チャペル建設委員会開催	チャペル建設委員会の役割について協議。	「チャペル建設委員会の推移」（2005.7）
12.19	第2回チャペル建設委員会開催	アンケートの実施について協議。	「チャペル建設委員会の推移」（2005.7）
2004.1.13	第3回チャペル建設委員会開催	アンケートの実施について協議。	「チャペル建設委員会の推移」（2005.7）
1.16	チャペル建設委員会は学生を対象にチャペル建て替えに関するアンケートを実施	アンケートは2月5日締切。	「チャペル建設委員会の推移」（2005.7）
2.3	第4回チャペル建設委員会開催	学生対象アンケートの中間報告と教職員対象アンケートの実施について協議。	「チャペル建設委員会の推移」（2005.7）
2.6	チャペル建設委員会は教職員を対象にチャペル建て替えに関するアンケートを実施	アンケートは2月28日締切。	「チャペル建設委員会の推移」（2005.7）
2.19	第5回チャペル建設委員会開催	チャペルの建て替えについて協議。	「チャペル建設委員会の推移」（2005.7）
3.2	第6回チャペル建設委員会開催	チャペルの建て替えについて協議。	「チャペル建設委員会の推移」（2005.7）

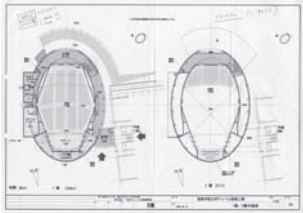
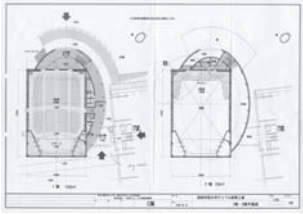
年月日	事項	内容	出典・資料
2004. 3. 5	大学総合計画委員会へチャペル建設委員会の進捗状況を報告	1) 建設場所は3号館跡地に、2) 建設時期は2007年度に限定せず(3号館の状況を踏まえて)先延ばしにする。	「チャペル建設委員会の推移」(2005.7)
3.17	他大学チャペル建築の訪問視察を実施	安藤公正宗教部事務室課長補佐は青山学院、フェリス女学院、聖学院等のチャペルを現地視察(～3月19日)。	「チャペル建設委員会の推移」(2005.7)、「(主要大学チャペル建築一覧)」
3.29	第7回チャペル建設委員会開催	教職員アンケートの結果報告。	「チャペル建設委員会の推移」(2005.7)
5. 7	第8回チャペル建設委員会開催	チャペルの耐震結果の報告。	「チャペル建設委員会の推移」(2005.7)
5.21	第9回チャペル建設委員会開催	村上学長宛の第1回答申(「中間答申」)について協議。	「チャペル建設委員会の推移」(2005.7)
6.17	チャペル建設委員会はこれまでのアンケート結果なども踏まえ大学総合計画委員会へ「中間答申」を提出	1) 西南学院大学のシンボルとなるチャペルを建設、2) 場所はキャンパス中央部分3号館跡地が望ましい、3) ランキン・チャペルの現状を考慮して早急な建て替えを望む。	「新チャペル(講堂)建設に関するチャペル建設委員会の中間答申の提出について」
11. 2	大学総合計画委員会が開催され「中間答申」を審議	パークレー・チャペル建設委員長の陪席なし。	「チャペル建設委員会の推移」(2005.7)
11. 5	チャペル建設委員会は「中間答申」に対する村上学長からの回答書を受理	1) 当面3号館は撤去しない、2) ランキン・チャペルの現位置付近での新チャペル建設が適当である、3) 2006年度に建設する。	「新チャペル建設について(回答)」
11	チャペル建設委員長は岩間徹副学長から「中間答申」の回答書について説明を受ける	パークレー・チャペル建設委員長と安藤宗教部事務室課長補佐が陪席。	「チャペル建設委員会の推移」(2005.7)
11.22	第10回チャペル建設委員会開催	村上学長からの回答を受けて協議の結果、再度建設地として3号館跡地を要望。	「チャペル建設委員会の推移」(2005.7)
2005. 1. 7	第11回チャペル建設委員会開催	村上学長宛の再答申提出について協議。	「チャペル建設委員会の推移」(2005.7)
2.18	チャペル建設委員会は大学総合計画委員会へ「再答申」を提出	1) ランキン・チャペル現在地を建設候補地からはずす、2) キャンパス中央の3号館跡地を希望、3) 大学総合計画委員会へのチャペル建設委員長の陪席を要望。	「新チャペル(講堂)建設に関するチャペル建設委員会の再答申について」
2.21	大学総合計画委員会が開催され、原案(現在地に2007年度建設)を承認	原案通り、新チャペルを現在地で2007年度に建設することを可決承認。パークレー・チャペル建設委員長と安藤宗教部事務室課長補佐が部分的に陪席。	「新チャペル建設に関する答申(2005.2.18)への回答について」(2005.3.17)
3. 8	部長会議が開催され、大学総合計画委員会による原案を承認	新チャペルを現在地で2007年度に建設する。	「チャペル建設委員会の推移」(2005.7)
3.10	チャペル建設委員会は「新チャペル建設場所と年度についての資料に対する要望」を学長へ提出	3月8日の部長会議における審議内容とその資料に対して14項目にわたる要望。	「チャペル建設委員会の推移」(2005.7)
3.15	定期理事会および定期評議員会が開催され、新チャペルをランキン・チャペル現在地に建設することが決定	新チャペルを現在地で2007年度に建設するという原案が可決承認される。	「チャペル建設委員会の推移」(2005.7)
3.16	第12回チャペル建設委員会開催	チャペル建設委員会に陪席した村上学長(岩間副学長、高松企画広報課長)は口頭により、建設場所決定に至る経緯を説明。	「チャペル建設委員会の推移」(2005.7)


年月日	事項	内容	出典・資料
2005. 3. 17	チャペル建設委員会は「再答申」に対する学長からの回答書を受理	大学第9次財政計画の原案通り、新チャペルを現在地で2007年度に建設する。理由は、1) 現在地に建て替えてもチャペルは十分大学のシンボルとなりうる、2) 将来キャンパス中央は3号館を取り壊した後空間として利用予定、3) 3号館利用の見通しが未定であり財政的理由からも取り壊しは早くて6、7年後、4) 募金を行っている関係上建設年度の大幅な遅れは許されない、5) 3号館跡地で建て替えた場合両側が狭隘になり、また工事中の騒音問題も発生、6) 第9次財政計画からもこれ以上取得年度を遅らせることは困難、など。	「新チャペル建設に関する答申(2005.2.18)への回答について」
3. 20	福岡県西方沖地震(震度6弱、M=7.0)が発生し西南学院大学も被害を受ける	ランキン・チャペル建築本体のほか、パイプオルガンの一部が床に落下するなど大きな被害を受ける。	「大学の概要/建学の精神・歴史/年表」(西南学院大学ホームページ)
4. 18	チャペル建設委員会は新チャペル建設に関する要望書を学長宛に提出	チャペル建設委員会は理事会決定を基本的に受け入れる立場から、委員任期、建設年度、代替地の3件に関して要望。	「チャペル建設委員会の推移」(2005.7)
4. 27	チャペル建設委員会は3月10日付け要望書に対する学長からの答申書を受理	先に提出した14項目にわたるチャペル建設委員会からの質問・要望への回答。	「チャペル建設委員会からの『新チャペル建設場所と年度についての資料に対する要望』(05.3.10.付)への回答」
6. 20	第13回チャペル建設委員会開催	今後の委員会のあり方について協議。	「チャペル建設委員会の推移」(2005.7)
6. 27	第14回チャペル建設委員会開催	委員交替、コンペ(設計競技)について協議。	「チャペル建設委員会の推移」(2005.7)
7. 20	第15回チャペル建設委員会開催(委員の一部交代)	チャペル建設委員会の今後の役割と構成員の確認、エスキスコンペ(設計業者の選定)、チャペル取り壊しにおける代替地について協議。図書館長の交替により新委員による体制が発足。委員長=G.W.パークレー(宗教部長)、委員=後藤新治(図書館長)、山田順(文学部助教授)、中村晴光(大学事務長)、山方信保(施設課課長補佐)、吉積正典(学生課課長補佐)、リディア・ハンキンス(学院宗教主事)、安藤公正(宗教部事務室課長補佐)。またチャペル設計者選定審査委員会構成員(案)について協議。	「チャペル建設委員会構成員(案)」、「チャペル設計者選定審査委員会構成員(案)」、「西南学院大学チャペル(大学講堂)設計競技(公募)実施要項(案)」
9. 9	第16回チャペル建設委員会開催	「西南学院大学チャペル(大学講堂)設計競技実施要項(案)」を協議。コンペ(設計競技)業者7社(一粒社ヴォーリス建築事務所、日建設計、日本設計、佐藤総合計画、石本建築事務所、昭和設計、安藤忠雄設計事務所)、コンペスケジュール、チャペル設計者選定審査委員会構成員13名。審査委員長=G.W.パークレー(宗教部長)、審査委員=後藤新治(図書館長)、小林洋一(神学部長)、渡邊均(人間科学部助教授)、門田理世(人間科学部助教授)、山田順(国際文化学部助教授)、中村晴光(大学事務長)、丸山利男(施設課長)、佐藤誠(教務課長)、岩佐俊司(学生課長)、吉積正典(就職課課長補佐)、リディア・ハンキンス(学院宗教主事)、安藤公正(宗教部事務室課長補佐)。延べ床面積1580㎡、2008年4月開館、総工費11億円未満(税込)。	「西南学院大学チャペル(大学講堂)設計競技実施要項(案)」

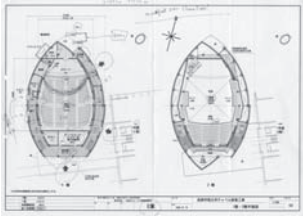
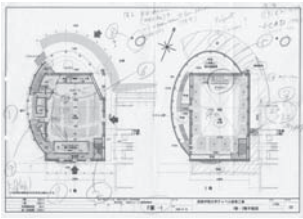
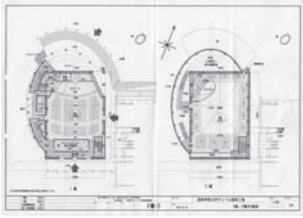
年月日	事項	内容	出典・資料
2005. 9. 12	チャペル建設委員会は他大学におけるチャペル建築概要をまとめる	主要27大学のチャペル建築について、建設年月日、設計会社、工費、座席数、パイプオルガンの有無など。	「(他大学におけるチャペル建築一覧)」
9. 27	部長会議および大学総合計画委員会が開催され新チャペル設計競技実施要項を承認	設計会社7社のうち1社がコンペ参加を辞退し、結局6社で競技。	部長会議資料
9. 29	常任理事会開催	新チャペル設計競技実施要項を報告承認。	常任理事会資料
10. 4	コンペ（設計競技）の現場説明会	設計競技質疑受付・回答期間（～10月12日）。	「西南学院大学チャペル（大学講堂）設計競技実施要項」
11. 11	コンペ（設計競技）の図書受付締切	コンペ設計会社6社から関係図書を受理。設計会社の名前を伏せて審査資料を作成（A社案、B社案、C社案、D社案、E社案、F社案）。	「西南学院大学チャペル（大学講堂）設計競技実施要項」
11. 16	チャペル設計者選定審査委員会は設計案を学内で一般公開しあわせてアンケートを実施	学生・教員・職員・同窓生を対象に、大学宗教部長室にて公開（～11月24日）。	「チャペル建設設計案の一般公開について（お知らせ）」（2005. 11. 10）
11. 22	コンペ（設計競技）のための第1回チャペル設計者選定審査委員会開催	6社から出された設計案や選定方法について協議。	「第1回審査委員会および第2回審査委員会（ヒアリングを含む）開催について（ご通知）」（2005. 11. 8）
11. 25	チャペル設計者選定審査委員会は新チャペル設計案のアンケート結果を公表	アンケート回収数92。A社案支持(26)、B社案支持(16)、C社案支持(10)、D社案支持(17)、E社案支持(19)、F社案支持(4)。	「新チャペル設計案アンケート集計結果」
11. 26	コンペ（設計競技）のためのヒアリングおよび第2回チャペル設計者選定審査委員会開催	チャペル設計者選定審査委員会に対する設計会社6社のプレゼンテーションならびに質疑応答。その後、設計コンサルタント作成の審査参考資料による講評を受け、審査に入る。13名の審査委員のうち2名は事前に不在者投票を行い、11名によって順次絞り込みながら最終審査に入ったが（4回の投票）、結局決定に至らず。	「西南学院大学チャペル（大学講堂）エスキスコンペ（A社、B社、C社、D社、E社、F社）」、「エスキスコンペ工事費概算表」、「エスキスコンペ審査参考資料」
	6社によるコンペ案外観パースの比較		「西南学院大学チャペル（大学講堂）エスキスコンペ審査参考資料」
	6社によるコンペ案平面図の比較		「西南学院大学チャペル（大学講堂）エスキスコンペ審査参考資料」

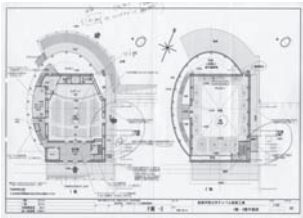
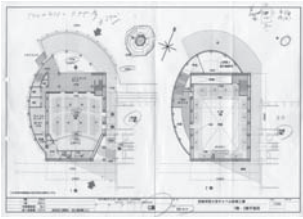
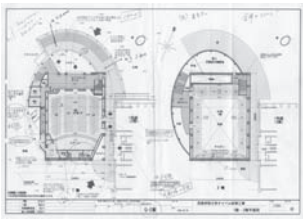
年月日	事項	内容	出典・資料
2005.12.10	コンペ（設計競技）のための第3回チャペル設計者選定審査委員会が開催され、一粒社ヴォーリス建築事務所案が最優秀案に決定	13名の審査委員全員出席のもとで審査を初めからやり直し、まず6社案を、変形=A社、オーヴァル（楕円形）=B社・D社・F社、シューボックス（箱型）=C社・E社の3タイプにおおきく分けたうえで、変形=A社、オーヴァル=B社・D社、シューボックス=E社の3タイプ4社に絞り込んだ。次にオーヴァルの1社（D社）を決め、3タイプ3社（A社、D社、E社）について最終投票を行った結果、僅差でD社（オーヴァル）が最優秀案に決定。その後、D社が一粒社ヴォーリス建築事務所であることが明かされる。選考に際し、1）出入口の位置および動線、2）ステージと客席との距離、3）建築の視覚的シンボル性、4）音響効果・防音性、5）将来への変容性・柔軟性（プラン変更の可能性）がとくに考慮された。	「第3回チャペル設計者選定審査委員会開催について（ご通知）」（2005.12.9）、「大学チャペル（大学講堂）設計者選定について（答申）」（2006.1.10）
	コンペで最優秀案に決まったヴォーリス（A案）の外観パース		「西南学院大学チャペル（大学講堂）エスキスコンペ D社」
	コンペで最優秀案に決まったヴォーリス（A案）の平面図		「西南学院大学チャペル新築工事 1階・2階平面図」（ヴォーリス、2006.2.27）
2006.1.10	チャペル設計者選定審査委員会は学長宛に選考結果を答申、部長会議が開催されヴォーリス案を承認	答申には審査経過、審査結果、決定事由、今後の検討課題が記載され、6社のコンペ資料が添付される。	「大学チャペル（大学講堂）設計者選定について（答申）」
1.12	常任理事会開催、審査結果をコンペ参加各社へ通知	常任理事会で選考結果（ヴォーリス案）を報告承認後、各社にFAXで審査結果を通知。	常任理事会資料、筆者宛Eメール記録
1.30	第17回チャペル建設委員会開催	設計事務所との今後の具体的進め方、コンペ改善案、検討課題（塔の建設）などについて協議。	筆者宛Eメール記録（2006.1.23）
2.27	第18回チャペル建設委員会開催	2002年に行われた法務局の地図作成作業による地積訂正により、西南学院中央キャンパス（第一種中高層住居専用地域、容積率150%、建ぺい率70%=60%+角地10%）の敷地面積が従来の42003.00㎡から41838.00㎡（165㎡減少）へと修正され、現在の容積率が150%を超えていることが判明。したがって新チャペルの最大延べ床面積が1542.46㎡となり、現在のヴォーリス案1652.50㎡（本体の1580㎡に渡り廊下等を含む面積）を110.04㎡縮小するか、他を取り壊して確保せざるを得なくなる。ヴォーリス建築事務所九州事務所の吉田稔所長と中山猷児副所長が初めて参加。以後の委員会は基本的に中山猷児副所長が陪席し説明。	「学校法人西南学院容積率の件」、「スケジュール表」（ヴォーリス）、「チャペル新築工事」（ヴォーリス）

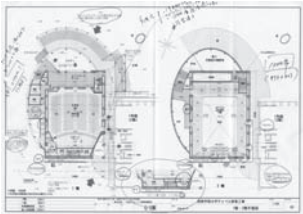
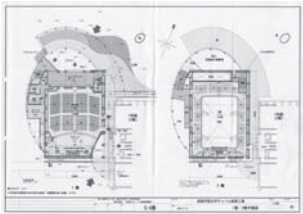

年月日	事項	内容	出典・資料
2006. 2. 28	福岡市教育委員会文化財部埋蔵文化財第1課は建築現場における元寇防塁跡を試掘	建設予定地南端の地表レベル70cm以下から防塁の一部と思われる鎌倉時代の石組みを発見。	チャペル建設委員会筆者記録(2006.4.26)
3. 9	第19回チャペル建設委員会開催	基本設計について協議。	筆者宛Eメール記録(2006.3.3)
3. 20	第20回チャペル建設委員会開催	福岡市教育委員会文化財部埋蔵文化財第1課による元寇防塁跡の試掘の結果、建設予定地南端の地表レベル70cm以下から鎌倉時代の石組みが発見され、当初の想定より遺跡がさらに北に位置していたことが判明。建物本体を北に12m移動するようにとの行政指導。これを受けて、建築自体を12m北に移動するとともに、オーヴァルの長径を2m伸長し、短径を1.5m縮小する。	チャペル建設委員会記録、「チャペル新築工事」(ヴォーリス)
4. 21	辻オルガン、オルガニスト、ヴォーリス建築事務所、OTO技術研究所の関係者が新チャペルの建て替えに伴うパイプオルガンの移設についてはじめて協議	辻オルガンの辻紀子氏はパイプオルガンの移設計画に関し音響専門家と相談する中で、オーヴァル(楕円形)プランのコンベ決定案がオルガン音響に不向きな形状であるとの指摘を受け、本学オルガニストらとともに基本計画の見直しを要望。今後チャペル建設委員会はオルガン関係者を含めて検討することを約束。しかしこれまでたびたび実施してきた懇談会やアンケートなどで見る限り、オルガン関係者からオーヴァル案がそもそもオルガン音響に不向きであるという声はほとんど聞かれなかった。	「辻オルガンとの協議会記録」(2006.5.25)
4. 26	第21回チャペル建設委員会開催	福岡市教育委員会からの正式な審査報告受理(3月29日)後、遺跡保存のため可能な限り建築物を北へ移動して欲しいという要請を受け、さらに3m(結局当初案より15m)北に移動することを決定。	「チャペル新築工事」(ヴォーリス)
5. 1	永田音響設計の永田穂氏から大学チャペル計画についての意見書を受理	意見書の中で永田氏は「この新チャペルはやはり多目的ホールである。オルガンにふさわしい空間とは言えない。」と助言。	「西南学院大学チャペル計画についての意見書」、「辻オルガンとの協議会記録」(2006.5.25)
5. 8	第22回チャペル建設委員会開催	基本設計、辻オルガン・永田音響設計からの意見書の取り扱いについて協議。面積表によると1階・2階=1446.50㎡、地階・その他の合計で本体は1579.88㎡。	「チャペル新築工事」(ヴォーリス)
5. 22	第23回チャペル建設委員会開催	確認済み事項は、1)チャペル建設場所(元寇防塁遺跡推定位置を踏まえて)、2)総建築面積1580㎡、3)椅子にメモ台は付設せず。要確認事項は、1)座席数(900~1000席)、2)エレベーター(設置せず)、3)宗教部関係部室、部室倉庫、ミキサー室、ホワイエの広さ、4)チャペル・広場・塔の位置関係、塔十字架の向き、5)辻オルガンからの要望。また竣工の日程(2008年3月)を守ること。	チャペル建設委員会筆者記録、「チャペル新築工事」(ヴォーリス)
5. 25	辻オルガンと永田音響設計、オルガニストを含むオルガン関係者とチャペル建設委員会とののはじめての協議	辻オルガンの辻氏、永田音響設計の永田氏、本学オルガニストたちは、現行ヴォーリス案のオーヴァル型ホールではランキン・チャペルの仕様に合わせて設計したパイプオルガンの響きが十分活かせないとしてシューボックス型への変更を要望。一方チャペル建設委員会とヴォーリス側は、講話者との距離を重視したコンベ案選定の経緯や、設計変更にかかる時間などの関係で現行案を基本にした改良を主張。結局両者の言い分は平行線のまま別れに終わる。	「辻オルガンとの協議会記録」

年月日	事項	内容	出典・資料
2006. 5. 29	第24回チャペル建設委員会開催	教務課との懇談（椅子の仕様など）について報告があり、基本設計について協議。	「チャペル新築工事」（ヴォーリス）
6. 5	第25回チャペル建設委員会開催	現在ヴォーリスが計画中の延べ床面積1650㎡を、焼却炉に6号館裏倉庫の一部を解体して確保するとの報告があり、1) オルガン（音響）とチャペル講話（ことば、距離）の関係、2) 建物と塔のシンボル性、3) 広場の機能（コミュニティ、コミュニケーション）、5) チャペルセンター、6) 座席数について協議。結論として、1) 1000席確保、2) 外観の変更なし、3) 塔設置、4) 講堂（ことば）としての役割重視を確認。	チャペル建設委員会筆者記録、「チャペル新築工事」（ヴォーリス）
6. 12	第26回チャペル建設委員会開催	今後のチャペル建設委員会の見通しについて協議。	チャペル建設委員会筆者記録
6. 15	永田穂氏より音響コンサルタント申し出の要望書を受理	永田氏からコンサルタントとして、ヴォーリス案の理念を尊重しつつ、講堂と礼拝堂の機能の調和をはかりたい旨の申し出がある。	筆者宛Eメール記録（2006. 6. 16）
6. 26	第27回チャペル建設委員会開催（コンペ時のヴォーリス原案＝A案に加え、新たにヴォーリスB案、C案、D案の提案）	オルガン関係者からの要望を踏まえ、ヴォーリスは新たに4つの基本設計代替案を提案。A案＝コンペ原案の扇形（講話者と会衆の距離が近く、両者の一体感を重視）、B案＝縦長六角形（オーヴァルの外郭を残しつつ扇形の持つ音響的弱点を改善）、C案＝シューボックス型（音響的には理想的な空間だが、外観とコンセプトはコンペ案と異なる）、D案＝扇形変形横長。パイプオルガンの音響・位置、講話者と会衆の距離、礼拝空間としてのまとまりを中心に協議。辻オルガン、永田氏、本学オルガニストが陪席。協議の結果、B案（縦長六角形）およびC案（シューボックス型）が有力候補となる。C案では延べ床面積の関係でチャペルセンターが消える。	「チャペル新築工事」（ヴォーリス）
	ヴォーリス B 案の平面図		「チャペル新築工事 B案」（ヴォーリス）
	ヴォーリス C 案の平面図		「チャペル新築工事 C案」（ヴォーリス）

年月日	事項	内容	出典・資料
	ヴォーリスD案の平面図 (概念図)		「チャペル新築工事 各案比較表」 (ヴォーリス)
2006. 6. 27	永田穂氏より、ヴォーリスの基本設計代替案に関する音響評価の意見書が届く	コンペ当選の原案であるA案(扇形)はステージと会衆の視覚的な距離が近い利点はあるが、側壁や後壁の反射音を効率的に利用するのが難しく、オルガン演奏空間としては好ましくない条件を内在、B案はヴォーリス案のオーヴァルとの調和をはかろうとしているが平面計画上の歪みが出るのは必至、C案の形状はコンペ案とおおきく隔たるが「オルガンおよびクラシック音楽の演奏には最適な空間」と結論。	「(ヴォーリスの基本設計代替案に関する音響評価)」
6. 30	第28回チャペル建設委員会開催	永田氏からの音響評価を踏まえ、本学の新チャペルとして講話者・会衆の一体感(扇形、アリーナ型)とオルガンの音響(シューボックス型)を現実的にどう調和させるかを協議。また永田氏と本学やヴォーリスとの関係についても協議。	チャペル建設委員会資料
7	建て替えのためランキン・チャペルのパイプオルガン解体が始まる	解体分解されたパイプ類は図書館エントランスホールと博物館収蔵庫(5号館1階)に分割して収蔵(～9月)。	「図書館のトマソン」 (拙稿「図書館報162」、 2007.4)
7. 18	第29回チャペル建設委員会開催 (ヴォーリスE案の提案、メンバーの一部交代)	前回の委員会の意見を踏まえ、ヴォーリスはアリーナ型のE案を提案。1) 講話者と会衆の距離をより近づける、2) ホール空間はオルガン音響を考慮してシューボックス型に、3) 延べ床面積の制限、4) コンペ案の外観を極力保つ、5) 地形の高低差(南高北低)などを考慮して設計。協議の結果、結局E案ではなく前回のC案に戻る。当初の外観や南北東3方向からのアクセスがなくなるなどコンペ案から大きな変更を伴うが、オーヴァルとキューブを合体融合させたC案の選択が最良と判断。パイプオルガンはステージ真上の正面に置き、2階席がオルガンを取り囲むアリーナ型とする。また永田氏にはこれからは辻オルガンの音響コンサルタントとして関わっていただくことを確認。この間の異動で委員会メンバーの一部が入れ替わる。委員長＝パークレー宗教部長(議長)、委員＝後藤図書館長、渡邊人間科学部助教授、山田国際文化学部助教授、中村大学事務長、吉積就職課課長補佐、鶴澤宗教部事務室係長、ハンキンス学院宗教主事。陪席＝小林財務担当次長、丸山施設課長、安藤総務課長、吉田施設課係長(記録)、清水宗教部事務室員、山方キャンパスサポート西南営業部長、ヴォーリス建築事務所(吉田所長、中山副所長、一色氏)、辻オルガン(辻氏、藤吉氏)。以後の委員会はほぼこのメンバーで開催。	「チャペル新築工事」 (ヴォーリス)、「チャペル建設委員会議事録」

年月日	事項	内容	出典・資料
	ヴォーリス E 案の平面図		「チャペル新築工事 E 案」 (ヴォーリス)
2006. 7. 26	永田穂氏より基本計画に関する今後の検討事項を文書で受理	ホール形状（コンベ案、礼拝空間、多目的講堂）、オルガンの設置場所（ステージとの関係、ステージ脇か正面か）、旧ランキン・チャペルの音響特性との関係（残響時間）、拡声設備などについて。	「新ランキンチャペル基本計画-1 今後の検討事項」
7. 26	第30回チャペル建設委員会開催 (ヴォーリス F1 案、F2 案の提案)	前回の委員会の意見を踏まえ、ヴォーリスは C 案を基に F 案を提案。1) 内部は完全にシューボックス型、2) 外観の一部にオーヴァルを残す、3) チャペルを 1 号館と平行に配置、4) 座席数1000、2 階席はステージを取り囲むアリーナ型。ステージが北側、エントランスが南側である点を除けば最終案 (G 案) の原型が成立。パイプオルガンをステージ真上 2 階正面に据える F1 案と 2 階正面左 (下手) に据える F2 案。音響とともに視覚的効果にも優れた F1 案が支持される。チャペルセンターは 1 階席後方に。チャペルと 1 号館を渡り廊下でつなぐ。	「チャペル新築工事」 (ヴォーリス)、「チャペル建設委員会議事録」
	ヴォーリス F1 案の平面図		「チャペル新築工事 F1 案」(ヴォーリス)
	ヴォーリス F2 案の平面図		「チャペル新築工事 F2 案」(ヴォーリス)

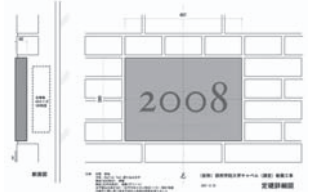
年月日	事項	内容	出典・資料
2006. 8. 1	第31回チャペル建設委員会開催 (ヴォーリス F3案、G1案の提案)	前回のF1案、F2案に対する委員会の意見を踏まえ、ヴォーリスはF3案を提案。1) チャペルセンターとトイレ位置の入れ替え、2) チャペルと1号館3階を渡り廊下でつなぐ、3) 南北の路地を庇でつなぐ。ヴォーリスは同時にF案のステージとエントランスの位置を180度反転させたG案(再びC案に近似)を作成。これによって来館者を北側のメインストリートに面した広場から、大階段、ピロティ、エントランス、ホールへとスムーズに導くことが可能となった。これまで南高北低の地形(南が約2m高い)を考慮して南エントランス、北ステージを前提に設計してきた。しかしG案は南を切り土、北を盛り土とすることで発想の転換を図る。以後はG案をベースに詳細な検討に入る。	「チャペル新築工事」 (ヴォーリス)
	ヴォーリス F3案の平面図		「チャペル新築工事 F3案」(ヴォーリス)
	ヴォーリス G1案の平面図		「チャペル新築工事 G1案」(ヴォーリス)
8. 28	第32回チャペル建設委員会開催 (ヴォーリス G2案の提案)	前回の委員会の意見を踏まえ、G1案をベースにヴォーリスはG2案を提案。1) チャペル基準レベルの見直し(全体を約1.8m 嵩上げ)、2) 1号館の1階からではなく2階から階段を取り付けてアクセス、3) 北側大階段の段数増設、4) 延べ床面積確保のためチャペルセンターを削除(将来増設)、5) 1000席確保のため座席中央の東西通路を削除、6) 元寇防塁との適切な距離を保つためにチャペル本体を北へ1.5m 移動。	「チャペル新築工事」 (ヴォーリス)、「チャペル建設委員会議事録」
	ヴォーリス FG2案の平面図		「チャペル新築工事 G2案」(ヴォーリス)

年月日	事項	内容	出典・資料
2006. 9	ランキン・チャペルの解体始まる	解体（～11月15日）・新築工事期間中のチャペルは4号館203教室で実施。	チャペル建設委員会筆者記録
9. 4	第33回チャペル建設委員会開催（ヴォーリス G3 案の提案）	前回の委員会の意見を踏まえ、ヴォーリスはG3案を提案。1)チャペルセンターの縮小復活（面積は他から工面）、2)1000席（1階597席、2階403席）、3)南側に屋外階段を取付け2階オルガン裏への直接進入経路を確保、4)西廊下はチャペルセンター内を通過。また椅子の仕様について協議し、2階席の一部を木製長椅子とすることで、1階528席、2階376席、合計904席の確保を決定。	「チャペル新築工事」（ヴォーリス）
	ヴォーリス G3 案の平面図		「チャペル新築工事 G3案」（ヴォーリス）
9. 12	第34回チャペル建設委員会開催（ヴォーリス G4 案＝最終案の提案）	前回の委員会の意見を踏まえ、ヴォーリスはG4案を提案。1)北側階段中央部をピンコロ石を敷き詰めたスロープとして仕上げ1号館北側の車椅子用スロープともうまく接続させるよう工夫、2)北側玄関の東側出入口を自動扉に変更、3)座席は1000席から904席とし1階座席中央の東西通路を復活、4)2階パルコニー席南側（ステージ側）部分に段差を設け、5)チャペル南側の屋外階段の傾斜部を隠すため外部壁を東に延長。チャペル建設委員会はこのG4案を最終的な基本設計計画案として決定。	「チャペル新築工事」（ヴォーリス）、「チャペル建設委員会議事録」
	ヴォーリス G4 案（最終案）の平面図		「チャペル新築工事 G4案」（ヴォーリス、2006.10.10）
	ヴォーリス G4 案（最終案）の外観パース		「チャペル新築工事」（ヴォーリス、2006.10.10）
9. 20	常任理事会開催	新チャペルの基本設計計画案としてG-4案を報告承認。	常任理事会資料

年月日	事項	内容	出典・資料
2006. 9. 29	解体中のランキン・チャペルから定礎を取り出す	「AD1954」と記された御影石の奥から、1) 旧新約聖書、2) 役員および教職員組織一覧表、3) 西南学院大学講堂新築工事設計者・施工者一覧(辻組他)、4) 見取り図(ヴォーリス建築事務所)、5) 創立35周年記念パンフレットが出てくる。	常任理事会資料「ランキン・チャペルの定礎部分に埋められていた資料等について」(2006.10.5)
10.10	部長会議開催	「西南学院大学チャペル新築工事」(G4案)が、これまでの経緯、基本計画の変更点とその理由などとともに報告承認された。設計変更のためスケジュールが大幅に遅れ、2007年3月初旬の着工、2008年2月末の竣工、2008年4月の献堂式を予定。	部長会議資料「新チャペル(大学講堂)の基本計画について」、「西南学院大学チャペル新築工事」(ヴォーリス)
11. 6	常任理事会開催	「西南学院大学チャペル新築工事基本設計書」を報告承認。	常任理事会資料
11.21	チャペル講話「新しいチャペル建築」	「新しいチャペル建築」(週テーマ:美術と音楽)と題しチャペル建設委員の後藤新治(国際文化学部教授)が新チャペルの基本設計案を図面や写真パネルで紹介(4-203教室)。	拙稿「週報使者 vol.XXXIII no.23」
11.27	臨時理事会が開催され、チャペル建設委員長のパークレー教授が次期学長に決定	10月25日に開催された学長推薦会議で選出されたG.W.パークレー神学部教授が、臨時理事会で次期学長に正式承認される(就任は12月15日)。	臨時理事会資料
12. 6	第35回チャペル建設委員会開催	ヴォーリスの紹介で、アートグラス制作マサズの八田(はちだ)氏は北側メンテナンスギャラリー上部壁に取り付けるスタンドグラスおよびホール東西(右左)壁に取り付けるガラスブロックの仕様を説明。	「チャペル(講堂)新築工事 アートグラスワークス御提案書」(マサズ)
12.12	第36回チャペル建設委員会開催(委員長の交代)	基本設計案が部長会議および常任理事会で承認されたのでいよいよ詳細設計に入るとの報告。すでに予算額の11億円を4600万円超過しており、塔の建設が難しくなっている旨の説明を受ける。またヴォーリスより基本設計書、実施設計図面、舞台機構設備概要(照明や音響)について説明がある。塔建設の可否については結論出ず。パークレー委員長から新委員長を宗教部長の磯望教授が引き継ぐことが報告される。	「基本設計書」(ヴォーリス)、「実施設計図面」の一部(ヴォーリス)、「舞台機構設備概要」(ヴォーリス)、「チャペル建設委員会議事録」
2007. 2. 28	第37回チャペル建設委員会開催	ヴォーリスは「設計概要書」をもとに詳細設計について説明。地下1階・地上2階、鉄骨鉄筋コンクリート一部鉄骨造、延べ床面積は1650㎡以内、建物本体を500mm西に移動。塔は今回建設しない方向で検討。	「西南学院大学チャペル新築工事 設計概要書」(ヴォーリス)
5. 8	大学チャペル建設の施工業者決定	新チャペルの施工業者に鹿島建設株式会社が決定。	筆者宛Eメール記録
5. 23	大学チャペル(講堂)新築工事起工式	大学チャペル新築工事現場(旧ランキン・チャペル跡地)にて起工式が開催され、施主の学校法人西南学院理事長斉藤末弘氏、設計者の一粒社ヴォーリス建築事務所代表取締役所長田中健一氏、施工者の鹿島建設九州支店副支店長小倉浩一郎氏の3者が鍬入れを行う。着工は5月25日。	「西南学院大学チャペル(講堂)新築工事起工式」プログラム、「工程表」(鹿島建設)

年月日	事項	内容	出典・資料
2007. 6. 15	チャペル建設委員会は学長宛にチャペルの塔建設について要望書を提出	委員会として今回は塔の建設を見送る。理由は、1) 基本設計見直しによる工事期間の短縮、2) 基本設計見直しによる建築工事費の大幅増加など。しかしチャペル本体、広場、塔はいわば「三位一体」の関係にあり、来るべき西南学院創立100周年記念事業の一環として塔の建設を望む旨要望。	「大学チャペル建設に係る塔の設置に関する要望書」
7. 19	第38回チャペル建設委員会開催(メンバーの一部交代)	7月1日の役職改選や職員の異動に伴い新たな委員会体制が発足。委員長＝磯宗教部長、委員＝後藤図書館長、山田国際化学部准教授、渡邊人間科学部准教授、中村大学事務長、ハンキンス学院宗教主事、安藤宗教部事務室長。陪席＝丸山施設課長、吉田施設課係長(書記)、鶴澤宗教部事務室係長、清水宗教部事務室職員。常任理事会から経費抑制に伴ういくつかの設計変更が提案されたが(「新チャペルの設計変更について」6月11日常任理事会承認)、新チャペルの重要な機能にかかわる北側キャノピー縮小と外壁赤レンガの仕様変更に関しては見直しを求める。1階ホール内の車椅子動線、今後の委員会運営(委員の任期はオルガン設置時まで)などについて協議。工事進捗状況＝9.8%(7月12日)。	チャペル建設委員会資料、「チャペル新築工事」(ヴォーリス)、「工程表」(鹿島建設)、「チャペル建設委員会議事録」、「ヴォーリスの赤煉瓦」(拙稿「西南学院月報 No.679」、2008.3)
7. 23	チャペル建設委員会は常任理事会に対し設計計画変更に関する再検討願い書を提出	1) 北側キャノピーの範囲縮小の見直し(基本設計当初案に復帰)、2) 外壁レンガの仕様変更の見直し(イギリス調積みからイギリス積みへ)の2点について常任理事会に再検討を要望。	常任理事会資料「新チャペルの設計計画変更に関する再検討について(お願い)」
8. 7	第39回チャペル建設委員会開催	工事進捗状況＝17%、設計変更に関する再検討(常任理事会提出)と永田音響との打ち合わせ後の修正部分について報告があり、1) 1階ホール内の動線、2) 1号館とチャペルをつなぐ渡り廊下上のキャノピー、3) 固定席の仕様、4) チャペル内椅子へのメモ台付設、5) 2階階サイドおよび正面の木製長椅子仕様について協議。設計変更は総事業費11億円の範囲内に収まれば再検討可能との回答を得る。北側キャノピーは当初案に、レンガは当初のイギリス積みそれぞれ復帰。	チャペル建設委員会資料、「チャペル新築工事」(ヴォーリス)、「チャペル建設委員会議事録」
8. 27	第40回チャペル建設委員会開催	工事進捗状況(2、3日程度の遅れ)について報告があり、1) チャペル会衆席からステージに至る車椅子動線(段差解消機)、2) 1号館との渡り廊下上のキャノピー(竣工後にキャノピー延長)、3) チャペルの固定椅子のメモ台(付設しない)について協議。	チャペル建設委員会資料、「チャペル新築工事」(ヴォーリス)、「チャペル建設委員会議事録」
8. 31	チャペル建設委員会は常任理事会にチャペルの椅子にメモ台を付設しないよう要望書を提出	椅子に付くメモ台は多目的利用のために不可欠な備品とは言えず、祈りの場としての意義やデザイン性を考慮してメモ台を付設しないよう要望。	常任理事会資料「チャペル設置椅子の仕様について(お願い)」
9. 6	大学チャペル赤白レンガのサンプル見学会	建設現場で実際の赤レンガと白レンガを使用したモックアップ(模型)を関係者に公開。	チャペル建設委員会資料(2007.9.20)

年月日	事項	内容	出典・資料
2007. 9. 20	第41回チャペル建設委員会開催	工事進捗状況=34.7% (9月17日)、永田音響設計との打合せ結果やその他の設計変更(螺旋階段他)について報告があり、1) 外部および礼拝堂内部の仕上げ材料再確認(モックアップ)、2) 外構の仕様見直し(豆砂利洗い出し、ピンコロ石、インターロッキング)、3) 座席の色(木部、張地)、4) 大学募金寄付者銘板(学外連携推進室からの問い合わせ)について協議。	チャペル建設委員会資料、「チャペル新築工事」(ヴォーリス)、「工程表」(鹿島建設)
10. 15	第42回チャペル建設委員会開催	工事進捗状況=39.8% (10月9日)、永田音響設計・辻オルガンとの打合せ結果について報告があり、1) ガラスブロック(礼拝堂側面)・スタンドグラス(礼拝堂後方上部)、2) 固定席サンプル確認(形状・色)、3) 外構仕様の再確認、4) プロジェクターの設置場所、5) 外壁レンガについて協議。	チャペル建設委員会資料、「チャペル新築工事」(ヴォーリス)、「工程表」(鹿島建設)、「チャペル建設委員会議事録」
11. 12	第43回チャペル建設委員会開催	工事進捗状況=44% (10月31日)、永田音響設計・辻オルガンとの打合せ結果やオルガンと螺旋階段の関係について報告があり、1) 礼拝堂内部特殊ガラス(プレゼンボード)、2) 外構・西門周りの仕様見直し(守衛所位置・門柱・緑地)、3) 1号館側外部階段とスロープの取り合い、4) 講壇家具、5) フィゴ室・倉庫間仕切り、6) レンガの施工方法、7) 大学募金寄付者銘板(設置しない)、8) 礼拝堂十字架設置(次回)、9) 2階床タイルカーペットについて協議。	チャペル建設委員会資料、「チャペル新築工事」(ヴォーリス)、「工程表」(鹿島建設)、「チャペル建設委員会議事録」
11. 26	第44回チャペル建設委員会開催	工事進捗状況=約50%、新チャペル献堂式(2008年4月5日)、永田音響設計・辻オルガンとの打合せ結果、フィゴ室と倉庫の間仕切り、新チャペルの愛称、定礎について報告があり、1) 礼拝堂後部スタンドグラス、2) 外構・西門周り仕様A'案、3) 1号館とチャペルをつなぐ渡り廊下(キャノピー2)の設計変更、4) 礼拝堂内の十字架設置、5) 大学募金寄付者銘板設置への回答について協議。	チャペル建設委員会資料、「チャペル新築工事」(ヴォーリス)、「チャペル建設委員会議事録」
11. 26	チャペル建設委員会は新チャペルに寄付者銘板(パソコン検索システム)を設置しない旨を学外連携推進室に伝える	学外連携施設にすでに寄付者銘板(パソコン検索システム)が設置されており、宗教色のある新チャペルは施設配置等を考慮し、原則的に設置しない。	「新チャペルにおける寄付者の銘板(パソコン検索システム)設置について」
12. 3	第45回チャペル建設委員会開催	工事進捗状況=52.8% (11月27日)、礼拝堂内壁面の吸音透かし積み、ピロティ2(南東隅)の段差レベルについて報告があり、1) 礼拝堂後部スタンドグラス、2) 外構・西門周り仕様B'案、3) 定礎板の位置(北側玄関正面東側)・仕様(陶板)、4) キャノピー2について協議。	チャペル建設委員会資料、「チャペル新築工事」(ヴォーリス)、「工程表」(鹿島建設)、「チャペル建設委員会議事録」
12. 6	エコ建築部会開催、大学チャペルの省エネルギー・省資源への取り組みについて協議	エコ建築部会(岩間徹委員長)が開催され、新チャペルの1) 建築計画、2) 空調・給排水衛生設備、3) 電気設備について、ヴォーリスの報告に基づいて協議し、省エネルギー・省資源の観点からおおむね承諾を得られる。	エコ建築部会資料「西南学院大学チャペルの省エネルギー・省資源への取り組みについて」(ヴォーリス)

年月日	事項	内容	出典・資料
2007.12.17	第46回チャペル建設委員会開催	工事進捗状況=60.1% (12月11日)、エコ建築部会、献堂式について報告があり、1) 外構・西門周り変更案、2) 定礎板の仕様、3) ピロティエー2廻りの外構レベル、4) 新チャペルの名称ついて協議。	チャペル建設委員会資料、「新チャペルの名称について(案)」、「チャペル新築工事」(ヴォーリス)
12.18	新チャペルの正式名称が「西南学院大学チャペル」と決まり、部長会議で可決承認される	名称は「西南学院大学チャペル」、ただし必要な場合は「西南学院大学チャペル(講堂)」とする。	部長会議資料「新チャペルの名称について(案)」
12.20	常任理事会が開催され献堂式の式次第を承認	献堂式を2008年4月5日(土)10時から西南学院大学チャペルで行うことが決定。なお定礎(定礎板の設置)は行わず、式典(定礎式)は行わない。	常任理事会資料「西南学院大学チャペル献堂式案」
12.20	大学チャペル定礎板の詳細が決定	ヴォーリスにより定礎板の詳細が決まる。材質=陶板、字体=Hoefer Text・彫り込み文字(「2008」)、地=無釉、文字=施釉(グリーン)、サイズ=290×407×40mm。設置場所は北玄関正面東側壁面下部。	「定礎詳細図」(ヴォーリス)
	定礎板の詳細図		「定礎詳細図」(ヴォーリス)
12.26	大学チャペル新築工事現場見学会	チャペル建設委員会を中心に関係者による工事現場見学会が開催され、鹿島建設の担当者から説明を受ける。	筆者撮影デジカメ画像
2008.1.15	第47回チャペル建設委員会開催	工事進捗状況=70.9% (1月8日)、定礎箱の中身(新共同訳聖書、新生讃美歌、2007年度週報「使者」、2007年度チャペル講話集、チャペル建設委員会構成員名簿、設計・施工業者名簿、その他)、チャペル見学会、献堂式について報告があり、1) 外構・西門周りの植栽計画ならびにサインボードの仕様、2) ピロティエー2の外構レベルについて協議。	チャペル建設委員会資料、「新チャペル定礎箱の中身について(案)」(2008.1.11)、「チャペル新築工事」(ヴォーリス)、「工程表」(鹿島建設)、「チャペル建設委員会議事録」
2.12	学生部はチャペル建設委員会に4月1日入学式当日の臨時父母席として公開前のチャペル使用を打診	公開にあわせて入学式の映像を体育館より電波で受け、プロジェクターでスクリーンに放映予定(学生課予算で業者が準備)。	「4月1日の入学式時の西南学院大学チャペル使用について」
2.14	第48回チャペル建設委員会開催、その後チャペル新築工事現場見学会	工事進捗状況=92~93%、永田音響設計による音響中間検査結果(2月4日実施、椅子ヤステーজ無しの状態での残響=4.4sec、計画通りの良い結果)、礼拝堂東出口の段差に伴う車椅子動線の変更、サインボードの仕様・色について報告があり、外構・西門周り植栽について協議。	チャペル建設委員会資料、「チャペル新築工事」(ヴォーリス)、筆者撮影デジカメ画像
2.22	第49回チャペル建設委員会開催、大学チャペル北側スタンドグラス設置	工事進捗状況、チャペル後方スタンドグラス取り付け(現場)について報告があり、1) 施設名サインの仕様・位置(現地)、2) チャペル内部両サイド壁面のガラスブロックの効果について協議。	チャペル建設委員会資料
2.25	大学チャペルに定礎を設置	定礎板の設置を関係者で執り行う。	チャペル建設委員会筆者記録

年月日	事項	内容	出典・資料
2008. 3. 13	竣工間近の大学チャペルを理事会役員が視察	理事会役員から、1) チャペル正面への十字架の設置、2) シンボルカラーの使用、3) チャペル2階手摺高さの検討、4) 2階デッキテラスの有効利用、5) 舞台幕の問題、6) 外部階段と斜面における事故対策について意見や指摘がなされる。翌3月14日付けでヴォーリスが回答書送付。	「役員検査時のご意見・ご指摘事項とそれに対する設計者の見解」(ヴォーリス)
3. 19	大学チャペル竣工	新チャペル建築の完成引き渡し。	「(仮称) 西南学院大学チャペル (講堂) 新築工事請負契約書」(2007. 5. 10)
3. 20	大学チャペル北側スタンドグラスの再調整 (～3月21日)	北側ピロティー上部に設置した白色の大型キャノピーが反射板の役割を果たし真上にあるスタンドグラスが明るく輝きすぎるため、マサズの八田氏は急遽窓全面にブルーの色ガラスを加えることで明るさのバランスを調整。	チャペル建設委員会筆者記録
3. 21	大学卒業式で竣工なった大学チャペルを公開	午前中のみ卒業生や保護者に特例公開。	「新チャペル見学会のお知らせ」
4. 1	大学入学式で大学チャペルを臨時父母席 (保護者控室) として公開	入学式の様子をチャペルのスクリーンに放映。	「4月1日の入学式時の西南学院大学チャペル使用について」(2008. 2. 12)
4. 5	大学チャペル (講堂) 献堂式	設計・監理＝一粒社ヴォーリス建築事務所、音響設計＝永田音響設計、施工＝鹿島建設、舞台設備＝日本通信工業、客席・家具＝アイチ、スタンドグラス＝マサズ、パイプオルガン＝辻オルガン (2009年9月設置予定)	「西南学院大学チャペル献堂式」、「西南学院大学チャペル」、「西南学院大学チャペル献堂式記念はがき」



完成した西南学院大学チャペル全景